

議官海江田信義誓首再拜謹テ
大臣參議諸公閣下ニ請願ス 神祇
官再真ノ今日ニ急務ナル所以ハ去
ル十月十二日ヲ以テ建白シ爾來殆
シト寢食ヲ忘レ焦思苦慮スルニ愈
々益々其ノ一日モ我皇國ニ欠ク
ヘカウサルモノナルヲ確信セリ抑
モ我國古來戰亂ノ多キ數フルニ遑
アラズ孰中頼朝秀吉ノ如キ英才雄

圖北條足利、如キ驕慢專横ナルモ
散テ非望ヲ企テサレモ、豈其レ偶
然ナリヤ蓋シ天地剖判以降、神
胤一系萬世ニ君臨シ而シテ天祖
上ニ照臨スルヲ以テ也然ラハ我
國ハ忠孝ヲ以テ國体ノ根源ト為
スヤ照字トシテ明カナリ若其レ
然ラハ皇室何ニ頼テ以テ安寧ヲ
保タレ臣民何ニ頼テ以テ幸福ヲ
得レ是レ古ヨリ神

祇ヲ尊崇シ以テ大孝ヲ申ネ大義ヲ
盡セシ所以ナリ今ヤ百事古典ニ法
リ獨リ建國ノ基礎ナル神祇官ヲ
置カス是レ豈忠孝ヲ重スルノ道ナ
ラシヤ宜ナル哉道義瘵滅倫理紊亂
忠孝ノ二字殆ント跡ヲ社會ニ絶ツ
嗚呼皇統ヲ天壤ト共ニ無窮ニ傳
フルモ、其レ只忠孝ノ二字アル
ニ俯テ現時ノ形勢ヲ視仰テ國家
ノ前途ヲ望ムハ泣血淋漓止ムル處

ヲ知ラサルナリ嚮ニ屢ニ清聴ヲ煩
ヤシト雖モ未タ盡サレ如多シ伏
テ冀クハ假スニ半日ノ時間ヲ以テ
シ大臣參議諸公列座シテ而シテ
ニ愚見ヲ吐露スルヲ容ルニ以テ信
義ヲシテ陽執ノ嘆十カウシメシ
下

明治十四年十二月十一日 議官海江田信義

太政大臣三條實美殿
左大臣熾仁親王殿
右大臣岩倉具視殿
參議大木喬任殿
參議山縣有明殿
參議伊藤博文殿
參議黑田清隆殿
參議西御從道殿
參議井上馨殿

參 議 山 田 顯 義 殿
參 議 松 方 正 義 殿
參 議 川 村 純 義 殿
參 議 大 山 巖 殿
參 議 福 岡 孝 弟 殿
參 議 佐 木 高 行 殿

石川通賢二入如也

甲子三月 三條右大臣

臣右大臣

右大臣

右大臣

右大臣

右大臣

井上右大臣

文書

山田冬海
 村方冬海
 大山冬海
 川村冬海
 福多冬海
 伊中冬海

謹テ上

太政大臣三條實美公閣下伏テ惟ルニ國家ノ盛衰ハ民カ
 ノ盛衰ニヤリ民カノ盛衰ハ立性業其ノ宜キヲ得ルト得サルト
 ニマリ方今ノ形勢タルヤ各國互ニ雄飛ニ其ノ智カラ爭ヒ其
 ノ威カラ振ヒ學藝日ニ以テ高尚ニ進ニ物産月ニ以テ其ノ
 繁殖ヲ極ム帑視鯨吞ノ情一日モ止ム能ハサルアリ内ニ維新
 日尚淺ク政體風俗日ヲ逐テ革新ス此ノ時當リ大ニ吾國
 カラ振ヒ吾國產ヲ益シ以テ泰平ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル
 ニマリ然ル、智カラ振ハス威カラ充タス元氣ハ遂ニ萎靡スル如
 キニシテ物産モ亦以テ繁殖セサル姿像アリ嗚呼國民タル者